

平成29年度まちづくり懇話会 報告書

市民と行政の協働によるまちづくりを更に推進するため、まちづくり協議会々長と市理事者が一堂に会し、意見交換会を主とした懇話会を開催した。



会の前半部では、総合政策部長が市施策「地方創生における坂井市の取組み」について説明を行い、今回コーディネーターを務める福井県立大学 江川誠一氏が「まちづくりに求められる姿」と題して講義を行った。

会のメインとなる意見交換会では、23のまちづくり協議会のうち4つの団体が活動上の課題等によるテーマを提示し、市理事者とまち協、まち協間において、活発な意見が取り交わされた。まち協と市が、地域の課題や市施策を共有しながら、今後のまちづくりに係るビジョンや方向性を確認することができた。

日時 平成29年7月6日（木）

午後3時より

会場 三国観光ホテル

I 部 懇談会 東尋坊の間

進行 まちづくり推進課 三田課長

開会 ・市長あいさつ

・出席者紹介

市施策の説明 「地方創生における坂井市の取組みについて」

総合政策部 小谷部長





意見交換会

コーディネーター兼進行

福井県立大学 地域経済研究所 講師 江川 誠一 氏

- ・導入部「まちづくりに求められる姿」
- ・意見交換会

各地区1名ずつ計4名※の意見をいただきながら、理事者及びまち協間にて意見交換

〔意見発表者〕

兵庫地区まちづくり協議会

宇野会長

磯部地区まちづくり協議会

中垣内会長

春江東部地区まちづくり協議会

阿津川会長

新保地区まちづくり協議会

森安会長



Ⅱ部 懇親会 松島の間

意見交換会会議録

1. 発言者 兵庫地区まちづくり協議会 会長 宇野秀俊

【要旨】

①活動の状況について

兵庫地区の市役所職員はまち協に入ってもらい協力いただいている。地域の人に積極的に参加してもらうには声掛けも不十分なのか、まだまだの感がある。



②区長任期について

まち協任期と各種団体の任期が違う。特に区長との任期に違いがあるので支障となっている。

③マンネリ化に対する考え方について

例年実施している行事はマンネリ化という考えはなく、毎年反省・改善の繰り返しから継続する力となり、それが地区の伝統になっていくと思う。

④プロジェクト淵龍について

プロジェクト淵龍部会が昨年度新たに発足した。初めてのビジネスであり、損失などの不安から反対意見が多かったが、行政の協力や交付金からの支援、公募制により26名が集まり、多くの賛同者・協力者がうまれた。ビジネスで生まれた利益還元・税金等で課題は残るものの以降も継続していきたい。地区には駅名変更による「下兵庫こうふく駅」やこうふくロードなどのいろいろな物語をまちづくりに繋げていきたい。

江川 C :

継続事業に有りがちなマンネリを打破している好例であると思う。飛びぬけたプロジェクトを立ち上げて、反対に合いながらも実行しており、興味深いと思う。新しいプロジェクトやビジネスを考えているまち協はいますか。

春江東部まち協 阿津川会長 :

まだ仮想の段階だが、春江東部地区のアーモンドの里事業において、将来的にはアーモンドを使ったお菓子を開発し販売したいと考えています。現在はビジネスを見据えながら準備中です。

江川 C :

コミュニティ・ビジネスについては外部のビジネス専門家やまちづくり推進課、シティセールス推進課など行政の様々な支援があると思います。

小谷部長：

国や市が求める地方創生は継続できる地域、持続可能な地域であり、稼ぐ力が必要となってきます。稼ぐ力をこれから地域で考えていくことが必要。それに対する国・県の支援は多いので、是非相談してほしいです。



江川 C：

ビジネスのスタートアップ時には行政や外部支援も必要となりますが、その後は自立的に経営することになると思います。

区長任期についてご意見等ありませんか。市としてはどう考えていますか。

小谷部長：

区長任期は圧倒的に1月から12月が多い状況であり、先進事例では、越前市が4月から3月に変更しています。市の動きではなく、まちづくり団体のサイクルを考えて区で任期変更の動きです。

川元教育長：

まち協からの働きがけで、区長会の任期変更できませんか。

江留上まち協 西畑会長：

市から指導していただければ、変わる可能性もあると思います。

北川副市長：

区長はほとんど1年で交代。市から指導するのは難しい。同じ任期に越したことはないですが、変更せずともまち協内の各種団体とあまり大きな障害はないのではと考えます。



江留上まち協 西畑会長：

現在はまち協先行の体制になりつつあるが、まち協は歴史が浅いので、やはり各区が主導権を握っている状況です。まち協からの改革は中々難しい。まち協の事業が区の事業よりいい仕事をするなどで地域住民に理解をしてもらえれば変えやすいと思います。

北川副市長：

良い解決方法があればいいのですが。

磯部まち協 中垣内会長：

越前市はどのような形で変更したかを分かる範囲で教えてほしい。

まち課 古川：

越前市では、まちづくり協議会に該当する自治振興地区において区が自主的に任期に合わせる形であり、現在では市内の3分の2の区が4月から任期に変更しているとのことです。

江川C：

時間の都合上、次に進みます。区長任期については懇話会の2回目以降で詰めていけると良いと思います。

2. 磯部地区まちづくり協議会（丸岡） 会長 中垣内秀信

【要旨】



①現在の課題について

設立時は地域の課題を検討してきたがここ数年同じことの繰り返しで推進委員が作業員化している。委員で先頭立つのは2割程度。今までのやり方を見直すためにまち協に入り、既存事業の一部白紙で継続・廃止事業を協議した。現在全体を白紙に戻し、今後の活動を見直し中。この動きで全く違った事業

も出ている。

また、まち協はボランティアか義務かとの声があり、まち協の考え方が浸透していないと実感。

②まちづくりに係る研修会について

まちづくりを学ぶ場をつくってほしい。期間が長いと尻込みするので、2日間缶詰でもいい。また年1回のまち課職員と各まち協との課題・問題点を話し合える場づくり。大勢ではなく少人数で。

③今後の活動について

丸岡地区で部会の合同会議をし、他まち協と成功や失敗の共有。自分たちだけの試行錯誤の時間を少なくしたい。また、自主財源を得て、年1回推進委員の自腹ではない慰労会をしたい。自主財源として広報誌に広告掲載やまつりの模擬店出店など。コミュニティ・ビジネスは高い壁があるので簡単にできないが、収益事業で推進委員に還元できるといい。様々な団体が集う連絡協議会が無いので、団体に声をかけ、年内中につくりたい。

江川 C :

どれも興味深い内容です。まちづくりの1泊2日の缶詰合宿は個人的にはあってもいいし、需要もあると思います。長期の講座に比べて間延びしないと思います。



磯部まち協 中垣内会長 :

実は、新潟まちづくり学校の合宿が10、11月にあり、既に申し込んでいます。

江川 C :

広く浅くというよりも、少人数で濃い内容というのは実りあるものになると思います。

小谷部長 :

まちづくりの勉強会だと、市の現行の事業ではまちカフェ夜学部が単発で5回開催しています。また、パートナーシップ講座等もあり、防災・福祉・まちづくりなど多くのメニューの出前講座があるので是非実施していただきたい。将来的に声が強いようならばまち協対象の1~2日のまちづくり講座を考えていきたいと思います。

江川 C :

残りの質問や意見も回答できるものもあると思うので、第Ⅱ部で話し合いたいと思います。

3. 春江東部地区まちづくり協議会 会長 阿津川保夫

【要旨】

①アーモンドの里づくりについて

春江東コミセンの新築移転に伴い、ミートアップ（時間場所テーマを決めて少人数が集まる交流会）するコミセンをテーマに、20~50年先を見据えた新しいコミセンの活用を考えたい。アーモンドの里づくり事業で、昨年度からアーモンドお花見フェスタを実施し、市内外200名を超える人が集まった。今年度は子どもに楽しんでもらう新プログラムで工夫した。アーモンドを使った名所づくりを考えており、まち課と相談して詰めていきたい。アーモンドの実を使用したお菓子作りや販売、枝を使用した草木染も進めていき、将来的にビジネスにつなげていければいい。地元の区長会、春江東小の児童の参画を願い、県外に出ても実家に戻った時に思い出してもらえるようにしたい。

②防災減災活動について

防災減災活動で災害時の正しい知識を伝え、子どもや高齢者が助かる地域にしたい。この活動は、地域の魅力の発見や地域の人の接点をつくるきっかけとなる。現状は関心が非常に薄く、自助共助の自助ですら他人や行政依存している。市民の参画と行政と一緒にあって、自分の命を自分で守るという意識改革をどう進めていけばいいのか考えたい。継続が重要となるが、まち協会員がセミナー講習を開いてもその場だけとなることが多く、工夫が必要となる。子ども対象に実施するとその親や祖父母も一緒に聞いてもらえる。より楽しく伝えられるよう、精一杯地道に続けたいので相談に乗っていただければと思う。



江川 C :

防災減災対策は地域の人の年齢に関係なくすべてに関わってきます。アーモンドの名所づくりは他の地区のやり方を参考にしたり、行政など他団体と連携したりしながら進められるといいと思います。またそれが他の地区の参考になればいいと思います。

防災については他の地区も多く関係しますので、共助の部分で行政が何をできるかわかり確認できればいいと思います。



川元教育長 :

地域の特色あるアーモンドの里づくりはとても魅力あるものです。5・6年前に苗木を植えて、今では花を咲かせ実もなっています。春江東小学校の校庭やB & Gの周囲にもあり、その範囲は広がってきており、新しいコミュニティセンターの周囲にも植えるかと思います。アーモンドの花は長く咲くので、桜の花見後に春江地区だけではなく坂井市内の方が観に行くようになるのではないかと思います。良いリーダーが引っ張り、他地域にも広まっていくのではないのでしょうか。防災は他のまち協と関わりながら見識を深めていってもらい、地元にあった独自の防災減災活動を工夫してもらいたいと思います。

江川 C :

まち協の縦ではなく横の連携を強め、防災部会同士で集まり、阿津川会長が講師で研修会をするという内容も十分あると思います。単独での活動は、本当にこれでよいのか迷ったり、参加者の顔ぶれが同じとなりいきづまったりすることもありかもしれません。

楽しく防災活動をしている他のまち協もいるかもしれないので、横のつながりで知恵を出し合えると良いと思います。川元教育長からも指摘がありましたので、行政が中心となり活発的に横の連携を進めていけたらと考えます。

4. 新保地区まちづくり協議会 会長 森安公生

【要旨】



①防災活動について

一つの村が一つの区となり、コミセンがそれぞれにあるので、顔の見える関係で意思の疎通が図りやすい。また決定が早いので運営しやすい。災害はS34年以来なく、危機意識が薄くなっている所以で特に力をいれて活動している。防災資機材格納庫の整備を進め、毎年資機材を少しずつ充実させおり、地区住

民にもそれを見てもらい、有事に即応できるように備えている。災害時に支障なく使用できるか、防災用かまどを使用し、薪で米を炊き、災害時に支障なく使用できるか訓練した。

また、住民の要望で高台にある1次避難所に続く避難道路を整備し、三か所の階段に滑り止めの人工芝を張り、手すりを設置して高齢者にも利用しやすいようにした。まち協部会員と住民とで3年間継続し、環境も良くなり喜ばれた。

②今後の課題について

三国地区全体で人口減少、急速な高齢化が課題となる。所有者の管理が届かない空き家を区の資産にできないかと考えている若い世代も増え、地域で解決しなければと不安が強い。当地区らしい活用方法を区民や行政と一緒に考えて対応していく必要があると考える。

その一方、先程の避難道路整備では、行政に頼らずにできることを住民に知って触れてもらうのが大切だと思い、まちづくり敷居を低くすることも重要なので、今年は参加しやすいように春のウォーキング行事と合わせて、防災用かまどを利用した米炊き訓練を実施。

③まち協の人材育成について

設立8年の経過から、抵抗や問題もあったが部会員の若返りを積極的に図った。子ども会や壮年会、女性の会などに呼びかけ会員となってもらった。その人たちが今後のまち協のリーダー的存在になれるよう人材育成取り組む。他の地区でどのような取り組みしているか知りたい。協働のまちづくりの観点から市の考えを聞かせてほしい。

江川C:

市から人材育成や協働のまちづくりの本質的な方針や考えをお聞かせ願いたいです。

小谷部長：

まち協と市が一緒になって協働のまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。地域の魅力づくりの中で、子どもたちが自分の生まれた地域の魅力を感じることで、地域に愛着をもってもらえる。彼らが地域の郷土愛を持つ大人に育ち、地域に何か還元していくような組織的なつながりを皆さんでつくっていったら、その子どもたち地域に住んで地域活動に参加してくれるのだと思っています。

川元教育長：

学校教育は地域に根ざしたものとして地域から信頼されるために、学校開放で多くの人に学校の中を知ってもらい、子どもたちをしっかりとみてもらう。そうすることで、子どもたちが安心して地域に出た時に大人の世界を实际見て、こんな大人になりたいと感じてもらうことが大切です。ここいる会長やまち協の力



で、部会に引っ張りこんでほしいと思います。イベントだけでなく、研修など親子で文化財などに触れ、地域活動に参加してほしい。福井県・坂井市の学力は優秀だが、それだけではなく人間力も大切であり、笑顔で力いっぱい地域の中で活動してもらいたいと思っています。それには学校だけではなく地域の協力が大事になってきます。学校の先生も地域に出ていきますので、まち協に受け皿となってもらい、一緒に子どもたちを地域に引っ張りこんでほしいと思います。

校長にも話しましたので、おそらく区長やまち協会長と顔と顔を合わせてお願いをしながら、子どもたちを助け、見守っていくのでこれからもお願いします。

江川 C：

空き家は他の地区も深刻なところも多いかと思います。空き家対策での相談・意見等ありませんか。



春江中部まち協 矢部会長：

空き家対策はまち協内でも話しましたが、個人所有なので対応に困っています。長年放置されている空き家もあり、まち協がそれに取り組むとなると安全確保の面で議論となり、話が止まっている状態です。

行政の協力を得ながらだとか何か方法も考えられるかと思うので、行政の考えを教

えてもらいたい。

北川副市長：

空き家や全国的な問題であり、坂井市でも実態調査をしており、潰れかかっている家屋も多いと認識していますが、権利などの関係から難しい面もあります。空き家をI・Uターンで活用する場合は改修の補助等もあります。心配ごとも多いと思うので、都市計画課に相談いただければ助言もできます。

江川 C：

坂本市長、全体的なことでは何か意見等ありますでしょうか。

坂本市長：

本日はまち協会長から取り組みや意見を聞いて参考となり、有意義な時間でした。まち協設立から10年が経過しましたが、やはりまちづくりの基本は人づくり。人と人とのつながりは重要であると常々思っていますが、人間関係が一番難しいと思います。

地域の参加意欲や課題意識が希薄化していることは大きな問題だと感じており、防災の話にもありましたが、自分たちの地域は自分たちの力でできるように、行政は行政の役割を果たし、努力していきますので今後ともよろしく願います。まち協の活動に敬意を評します。



江川 C：

最後の締めを市長よりいただきました。今回の懇話会は個人的に実施してよかったと思います。時間がなく申し訳ありませんでしたが、連携や課題等の指摘もあり、今後微力ながらお手伝いできればと思っています。これで第1部を終了したいと思います。ありがとうございました。